様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	スポーツトレーナー科	夜・通信	2025 年度 45 単位 2024 年度 42 単位	３×２＝６単位	
	アスレティックメディカルトレーナー科午前部	夜・通信	2025 年度 33 単位 2024 年度 37 単位	３×２＝６単位	
	アスレティックメディカルトレーナー科午後部	夜・通信	2025 年度 33 単位 2024 年度 37 単位	３×２＝６単位	
	ﾊﾟｰｿﾅﾙﾄﾚｰﾅｰ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ科	夜・通信	2025 年度 48 単位 2024 年度 54 単位	３×２＝６単位	
	スポーツインストラクター科	夜・通信	2024 年度 48 単位	３×２＝６単位	
	スポーツ科学科	夜・通信	2025 年度 44 単位 2024 年度 88 単位 2023 年度 48 単位 2022 年度 32 単位	３×４＝１２単位	
	スポーツアナリスト科	夜・通信	2022 年度 32 単位	３×４＝１２単位	
商業実務専門課程	スポーツビジネス科	夜・通信	2025 年度 42 単位 2024 年度 54 単位	３×２＝６単位	

（備考）・学科名称変更
新：スポーツ科学　旧：スポーツ科学トレーナー科（2024 年度より）
（※2023 年度学科名称変更
新：スポーツ科学トレーナー科　旧：ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ科）
新：ﾊﾟｰｿﾅﾙﾄﾚｰﾅｰ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ科　旧：ﾊﾟｰｿﾅﾙﾄﾚｰﾅｰ科（2025 年度より）
・募集停止学科
ｽﾎﾟｰﾂｱﾅﾘｽﾄ科（2023 年度入学生より募集停止、４年生のみ在籍）
スポーツインストラクター科（2025 年度入学生より２年生のみ在籍）
・修業年限変更
新：ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ科（３年制）　旧：ｽﾎﾟｰﾂﾄﾚｰﾅｰ科（２年制）
（2025 年度入学生より３年制）

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ＨＰにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。 （掲載：https://www.tsr.ac.jp/education/

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.jikeigakuen.ac.jp/information

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社役員	令和６年６月１日～令和９年５月31日	地元（江戸川区）の名士として学校と地域の連携を図る。
非常勤	株式会社役員	令和６年６月１日～令和９年５月31日	地元（北海道）の名士として学校と地域の連携を図る。
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） （スポーツトレーナー科、アスレティックメディカルトレーナー科午前部、アスレティックメディカルトレーナー科午後部、パーソナルトレーナー・インストラクター科（旧：パーソナルトレーナー科）、スポーツインストラクター科、スポーツ科学科（旧：スポーツ科学トレーナー科、スポーツトレーナースペシャリスト科）、スポーツアナリスト科、スポーツビジネス科） 【作成について】 各授業科目については、毎年度、教務部においてカリキュラムプレゼンをおこない検討・検証をおこない、それを踏まえて各授業を担当する教員により、作成をおこなっている。 カリキュラムプレゼンは、業界動向やニーズを鑑み、必要に応じて養成目的、教育目標、学年目標を見直している。これを基にカリキュラムの見直しを検討している。カリキュラムについては、最新の知識・技術を取り入れることを目的に、教育課程編成委員会の委員からの意見も取り入れている。各授業においては、より効果的な学習となるように改善点をシラバスに反映できるようにしている。 シラバスは学内共通の様式で作成している。シラバスには、科目名、授業形態（講義・演習・実習）、担当教員名、時間数・単位数、開講時期（開講年次、前後期区分）、到達目標、授業計画（各回の授業内容）、使用教科書・教材、評価方法に加え、授業の学習内容と心構え（実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか具他的に記載する）を必須項目としている。 【時期について】 翌年度の授業計画（シラバス）はカリキュラムプレゼンの決定を踏まえて、毎年、１２月～２月に担当教員が作成する。内容については学科責任者のチェックを得て、教務部長が最終的に確認する。ＨＰには４月に今年度のシラバスを公開する。	
授業計画書の公表方法	掲載： https://www.tsr.ac.jp/education/
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）
　学則および学則施行細則において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規定している。
　各科目について成績評価をおこなっている。実習科目についても評価基準を設定している。各科目の評定については１００点満点で評価し、６０点以上で合格とし、ＡからＦの６段階評価を行う（注：Ａ～Ｄ合格、Ｅ～Ｆ不合格）。ＧＰＡ対象ではない科目はＳ（合格）、Ｕ（不合格）の評価をおこなう。
　定期試験の受験資格（出席率）および実習・インターンシップ参加の要件を定めている。

（参考）学則
第１２条
　定期試験及び臨時試験（論文・レポートを含む）、平素の学習状況、出席状況の３要素で評価する。評価は「Ａ」「Ｂ」「Ｃ」「Ｄ」「Ｅ」「Ｆ」で行い、「Ｄ」以上で合格として単位認定する。

２．定期試験の方法は筆記試験、実技試験、レポートのいずれかで行う。

４．それぞれの授業科目について、70%以上の出席率に満たない場合は定期試験の受験資格を喪失しＥ評価とする。

５．外部実習の成績評価は実習前及び実習後教育、実習施設の評価、実習日誌及び実習後レポートを総合し評価する。

（参考）学則施行細則
第７条３
　実習・インターンシップ参加の最低条件は以下の項目の全てを満たす者である。
　(1)実習までの履修科目の出席率がすべて良好であること
　(2)実習に対して十分な目的意識とやる気を有していること。
　(3)身体的・精神的・社会的に実習に耐えうる健康状態であること。
　(4)身なりや態度が実習に臨むにふさわしいと判断された者。
　(5)実習前試験に合格した者であること。

５．現場実習・インターンシップの出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。

第１８条
　各教育課程に定める、１年間に履修する授業単位数の下限を満たし、学校長が適当と認めた者は進級することができる。

２．卒業時までに修業年限以上在学し、最終学年を修了した上で、教科課程に示す所定の単位を修了し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）
学則施行細則において、ＧＰＡ（Grade Point Average）について記載しており、学内の成績評価として使用している。ＧＰＡは学生の履修した１授業科目あたりの平均成績を指す。当校では、卒業時の表彰基準、就職の推薦などに活用している。

（参考）　学則施行細則
第６条
　各科目の評定は学則第１２条１項にもとづいて、ＡからＦの６段階評価を行う。

２．６段階評価の評点とＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）による評価は下記の通りとする。

評価	内容	評点	GPA
A	合格	100 点～90 点	4.0
B		89 点～80 点	3.0
C		79 点～70 点	2.0
D		69 点～60 点	1.0
E	不合格	出席不良	0.0
F		59 点以下	0.0

３．ＧＰＡは成績評価による学業成績を総合的に判断する指標として用いる。各評点のＧＰＡに単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目の総単位数で除して算出する。

４．ＧＰＡ対象以外の科目については次の評価基準とする。

評価	内容	評点	GPA
S	合格	認定	―
U	不合格	認定せず	―
ＴＣ	他校等で履修した単位の認定		―

成績評価方法については、学則施行細則の内容をＨＰで公開するほか、入学時のオリエンテーション、２年次以上の新年度のガイダンス時に学則施行細則を含む学生便覧をもとに周知している。なお、本校学生は Microsoft Teams の学生サイトで学生便覧を常時閲覧できる。

（注）学則第１２条
　定期試験及び臨時試験（論文・レポートを含む）、平素の学習状況、出席状況の３要素で評価する。評価は「A」「B」「C」「D」「E」「F」で行い、「D」以上で合格として単位認定をする。（以下、省略）

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.tsr.ac.jp/documents/education/school-regulations.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
東京スポーツ・レクリエーション専門学校は、多様化するスポーツ業界、レクリエーション業界、医療業界で活躍する専門家に必要な知識・技術を身につけ、加えて、生きがい、コミュニケーションの知識・技術を身につけた人材を養成し、人々が健康で生きがいに満ちた社会の実現を目指すことを目的としています。
　卒業要件については、「学年ごとに必要単位数を取得し、学校長が適当と認めた者は卒業となる」「卒業・進級については、卒業進級判定会議で決定となる」ことを定めている。なお、卒業進級判定会議は学校長主催にて開催している。
　詳細についてはディプロマポリシーを始め、学生便覧等に記載している。
　当校ではディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）を策定し、ＨＰに公表している。

　＜学則施行細則＞
第１８条
　　各教育課程に定める、１年間に履修する授業単位数の下限を満たし、学校長が適当と認めた者は進級することができる。

２．卒業時までに修業年限以上在学し、最終学年を修了した上で、教科課程に示す所定の単位を修了し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。

３．進級・卒業については、卒業進級判定会議にて決定する。

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.tsr.ac.jp/documents/education/school-regulations.pdf

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人滋慶学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
収支計算書又は損益計算書	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
財産目録	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
事業報告書	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information
監事による監査報告（書）	https://www.jikeigakuen.ac.jp/information

２．教育活動に係る情報
①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士
文化・教養		文化・教養専門課程	スポーツトレーナー科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	６２ 単位時間／単位	６０ 単位時間／単位	４５ 単位時間／単位	１９ 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１２０人	１０１人	０人	４人	２４人	２８人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照
学修支援等
（概要） 担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
７０人 (100%)	２４人 (34.3%)	３９人 (55.7%)	７人 (10.0%)
（主な就職、業界等） プロスポーツチーム、実業団（ﾄﾚｰﾅｰ､ｱｼｽﾀﾝﾄ）、トレーニングジム（ﾄﾚｰﾅｰ）、コンディショニングジム（ﾄﾚｰﾅｰ）、フィットネスクラブ（ﾄﾚｰﾅｰ､ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ）、スポーツ整形外科・治療院（トレーナー、リハビリ助手）　等			

（就職指導内容） キャリア教育講座、個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等
（主な学修成果（資格・検定等）） アスレティックトレーナー（理論試験、実技試験）、パーソナルトレーナー（ＮＳＣＡ－ＣＰＴ）、トレーニング指導者（ＪＡＴＩ－ＡＴＩ）、健康運動実践指導者、赤十字ベーシックライフサポーター
（備考）（任意記載事項） ２０２４年入学生（２年次）は２年制。２０２５年入学生（１年次）は３年制。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
１３４人	７人	５．２％
（中途退学の主な理由） 進路変更、体調不良、一人暮らし不適応		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	アスレティックメディカルトレーナー科 午前部	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	６２ 単位時間／単位	５３ 単位時間 ／単位	４４ 単位時間 ／単位	６ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
８０人	８２人	０人	２人	１４人	１６人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
４２人 (100%)	２７人 (64.3%)	１４人 (33.3%)	１人 (2.4%)

（主な就職、業界等）
プロスポーツチーム（トレーナー）、実業団チーム（トレーナー）、トレーニングジム（トレーナー）、スポーツ整形外科・治療院（トレーナー、リハビリ助手）　等

（就職指導内容）
個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等

（主な学修成果（資格・検定等）） アスレティックトレーナー（理論試験、実技試験）、パーソナルトレーナー（ＮＳＣＡ－ＣＰＴ）、トレーニング指導者（ＪＡＴＩ－ＡＴＩ）、健康運動実践指導者、赤十字ベーシックライフサポーター
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
８８人	７人	８．０％
（中途退学の主な理由） 進路変更、学習意欲の喪失、経済的理由による就学困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	アスレティックメディカルトレーナー科 午後部	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	６２ 単位時間／単位	５３ 単位時間 ／単位	４４ 単位時間 ／単位	６ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
８０人	６８人	０人	２人	１５人	１７人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
２９人 （ － ％）	２６　人 （ 89.7－ ％）	３　人 （10.3％）	０　人 （ － ％）

（プロスポーツチーム（トレーナー）、実業団チーム（トレーナー）、トレーニングジム（トレーナー）、スポーツ整形外科・治療院（トレーナー、リハビリ助手）　等主な就職、業界等）

（就職指導内容）
個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等

（主な学修成果（資格・検定等）） アスレティックトレーナー（理論試験、実技試験）、パーソナルトレーナー（ＮＳＣＡ－ＣＰＴ）、トレーニング指導者（ＪＡＴＩ－ＡＴＩ）、健康運動実践指導者、赤十字ベーシックライフサポーター
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
５９人	５人	８．５％
（中途退学の主な理由） 進路変更、学業の不振、生活習慣への不適応		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	パーソナルトレーナー・ スポーツインストラクター科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	６２ 単位時間／単位	６０ 単位時間 ／単位	５２ 単位時間 ／単位	１２ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
８０人	７６人	２人	２人	２３人	２５人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
３６人 (100%)	０人 (0.0%)	３２人 (88.9%)	４人 (11.1%)

（主な就職、業界等）
トレーニングジム（トレーナー）、コンディショニングジム（トレーナー）、スポーツクラブ（インストラクター）、フィットネスクラブ（インストラクター）、スポーツクラブチーム（トレーナー）　等

（就職指導内容） キャリア教育講座、個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等
（主な学修成果（資格・検定等）） パーソナルトレーナー（ＮＳＣＡ－ＣＰＴ）、トレーニング指導者（ＪＡＴＩ－ＡＴＩ）、健康運動実践指導者、フィットネスクラブマネジメント技能検定、ベーシックライフサポート
（備考）（任意記載事項） ２０２５年入学生（1 年次）より、パーソナルトレーナー・インストラクター科に学科名変更。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
７３人	６人	８．２％
（中途退学の主な理由） 進路変更、独立開業、家庭の事情による帰国（留学生）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	スポーツ インストラクター科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	６２ 単位時間／単位	４３ 単位時間 ／単位	６８ 単位時間 ／単位	１１ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
４０人	１０人	０人	２人	９人	１１人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
６　人 （－％）	０　人 （0.0 ％）	６　人 （100.0 ％）	０　人 （0.0 ％）

（主な就職、業界等）
スポーツクラブ（インストラクター）、フィットネスクラブ（インストラクター）、幼児体操教室、健康増進施設、高齢者施設　等

（就職指導内容）
キャリア教育講座、個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等

（主な学修成果（資格・検定等）） パーソナルトレーナー（ＮＳＣＡ－ＣＰＴ）、トレーニング指導者（ＪＡＴＩ－ＡＴＩ）、健康運動実践指導者、フィットネスクラブマネジメント技能検定、ベーシックライフサポート、グループエクササイズフィットネスインストラクター
（備考）（任意記載事項） ２０２５年４月募集停止の学科のため、１年次は在籍していない。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
７人	１人	１４．３％
（中途退学の主な理由） 経済的理由による就学困難		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	スポーツ科学科		○

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
４年	昼	１２４ 単位時間／単位	６６ 単位時間 ／単位	１６４ 単位時間 ／単位	６４ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１６０人	１３１人	３人	４人	２５人	２９人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
８　人 （ － ％）	１　人 （ 12.5 ％）	６　人 （ 75/0 ％）	１　人 （ 12.5 ％）

（主な就職、業界等）
（プロスポーツチーム（トレーナー、スポーツサイエンティスト）、実業団チーム（トレーナー、スポーツサイエンティスト）、トレーニングジム（トレーナー、スポーツサイエンティスト）

（就職指導内容）
キャリア教育講座、個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等

（主な学修成果（資格・検定等）） アスレティックトレーナー（理論試験、実技試験）、パーソナルトレーナー（ＮＳＣＡ－ＣＰＴ）、ストレングス＆コンディショニングスペシャリスト（ＮＳＣＡ－ＣＳＣＳ）、トレーニング指導者（ＪＡＴＩ－ＡＴＩ）、健康運動実践指導者、赤十字ベーシックライフサポーター、スポーツサイエンティスト、HUDL スポーツコード修了認定、dartfish 修了認定、
（備考）（任意記載事項） ２０２２年度入学生（４年次）はスポーツトレーナースペシャリスト科。 ２０２３年度入学生（３年次）はスポーツ科学トレーナー科。 ２０２４年度以降入学生（２年次、１年次）はスポーツ科学科。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
１０７人	１１人	１０．２％
（中途退学の主な理由） 進路変更、学習意欲の喪失		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化・教養 専門課程	スポーツアナリスト科		○

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
４年	昼	１８６ 単位時間／単位	１６ 単位時間 ／単位	８８ 単位時間 ／単位	１６ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
４０人	１０人	０人	２人	８人	１０人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
１２　人 （－ %）	０　人 （ 0.0 %）	１２　人 （100.0 %）	０　人 （ 0.0 %）

（主な就職、業界等）
スポーツアナリスト（スポーツチーム、分析ソフトウェア企業、スポーツテクノロジー関連企業）

（就職指導内容）
キャリア教育講座、個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等

（主な学修成果（資格・検定等）） IT パスポート、統計検定3級、統計検定2級、Hudl スポーツコード修了認定証、Dartfish 修了認定証、ベーシックライフサポート（BLS）
（備考）（任意記載事項） ２０２３年募集停止の為、２０２５年は４年次のみ在籍。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
２２人	０人	０．０％
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務	商業実務 専門課程	スポーツビジネス科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	６２ 単位時間／単位	１４ 単位時間 ／単位	１４３ 単位時間 ／単位	７８ 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１６０人	１８１人	３人	４人	３０人	３４人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の１．を参照

成績評価の基準・方法

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の３．を参照

卒業・進級の認定基準

（概要）
様式第２号の３【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の４．を参照

学修支援等

（概要）
担任制をとり学生との個人面談を定期的に実施している。日々の出席状況の確認を実施し、授業担当講師と情報共有をおこない問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。Microsoft Teams を効果的な授業資料提供や学習課題への取り組み等に活用している。現場実習については希望の就職に繋がるように業界と連携して学生個々の実習先を決定している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
９２人 (100%)	３人 (3.2%)	８１人 (88.0%)	８人 (8.7%)

（主な就職、業界等）
スポーツチーム（フロントスタッフ、マネージャー）、スポーツメーカー、スポーツショップ、サッカースクール、バスケットボールスクール

（就職指導内容）
キャリア教育講座、個人面談、企業説明会、履歴書指導、面接練習、電話・オンラインでの個別就職相談　等

（主な学修成果（資格・検定等）） ベーシックライフサポート、販売士２級、販売士３級、パーソナルカラー検定、公認サッカーＣ級コーチ、公認３級審判員、JBA 公認Ｄ級コーチ・Ｃ級コーチ、ビジネス能力検定ジョブパス３級
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
１８８人	６人	３．２％
（中途退学の主な理由） 進路変更、学習意欲の低下、集団不適応、体調不良、精神不安定、学修内容への不満		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生全員との個人面談を年２回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
スポーツトレーナー科	100,000 円	880,000 円	405,000 円	総合演習費
アスレティックメディカルトレーナー科午前部	100,000 円	500,000 円	180,000 円	総合演習費
アスレティックメディカルトレーナー科午後部	100,000 円	500,000 円	180,000 円	総合演習費
パーソナルトレーナー・インストラクター科	100,000 円	880,000 円	420,000 円	総合演習費
スポーツ科学科	100,000 円	880,000 円	350,000 円	総合演習費
スポーツビジネス科	100,000 円	880,000 円	420,000 円	総合演習費

修学支援（任意記載事項）

●特待生制度

初年度授業料の全額、半額、20 万円、10 万円、5 万円のいずれかの免除。
特待生試験（実技特待生、筆記特待生、スポーツ特待生）の受験者で基準に該当する者）。入学定員の 20%までを対象とする。

●兄弟・姉妹学費免除制度

入学者の兄弟姉妹が滋慶学園グループの在校生または卒業生の場合、初年度授業料を 10 万円免除。

●医療系資格者優遇制度

入学者本人が理学療法士、管理栄養士、柔道整復師、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、看護師の資格を有する場合、初年度授業料を 5 万円免除

●Wスクール制度

アスレティックメディカルトレーナー科午前部または午後部のみ対象。本校と姉妹校の東京メディカル・スポーツ専門学校に同時入学し、アスレティックトレーナー資格と医療系資格の取得を目指す場合、年間学費を 15 万円免除。

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）

https://www.tsr.ac.jp/documents/jyouhou/selfInspection_r5.pdf

学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）

学校関係者評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、学校関係者からの理解と参画を得て、意見、評価をいただきます。学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果すとともに、地域における学校関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていきます。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
スポーツクラブ　運営・管理	2024. 4. 1～ 2026. 3. 31	卒業生
スポーツジム　取締役	2024. 4. 1～ 2026. 3. 31	地域
高等学校　校長	2024. 4. 1～ 2026. 3. 31	高等学校
公益財団法人（スポーツ関係） チーフトレーナー	2024. 4. 1～ 2026. 3. 31	企業
スポーツ関連企業　代表取締役	2024. 4. 1～ 2026. 3. 31	企業
自営業	2023. 4. 1～ 2027. 3. 31	保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.tsr.ac.jp/documents/jyouhou/schoolrele_r5.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		
特定非営利活動法人　職業教育評価機構の令和５年度私立専門学校等第三者評価を受審しました。 評価結果は３７の中項目すべてにおいて『「可」・・・基準を満たしている』との判定となり、適切な運営を行っている旨の評価を受けました。		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.tsr.ac.jp/